

6月セミナーリフレクション

講師：授業と学びの研究所フェロー 神戸 和敏氏

テーマ「学習指導要領の実現とGIGAクール構想」

一人一台のタブレットが導入されてから、自分の授業が「鵜飼型」になっていることが多いことに気づかされました。タブレットを授業で導入していくことが、生徒たちの将来のために大変重要であることがよくわかりました。今後は、タブレットを使いながら、生徒と生徒をどのようにつなげていくのかを、しっかりと考え工夫しながら試行錯誤していきたいと強く思いました。今日の講義が大変勉強になりました。

小牧でも、特に私の職場でも、変わってきたところとなかなか変わらないところと様々です。大きなうねりとして変革するためには、やはり私たち管理職のビジョンであると改めて強く感じました。また、来週から地道にコツコツと挑戦し、すばらしい学校になるように頑張りたいと思います。そんな思いにさせられた講義でした。ありがとうございました。

GIGAスクール構想の基本的なところを学ぶことができました。一人一台のPCが入って授業が大きく変わってきたと思います。しかし、残念ながら現状はまだまだ使うことに精一杯で、本当に学びが豊かになったかといえば、心許ないかぎりです。資料の提示やパンフレットづくりなど、なるほどと思うことが沢山ありました。そういう意味でも、今後、どういう活用のあり方、仕方があるのか、基本的な考えを学ぶことができました。ありがとうございました。

<質問>です。「ふりかえり」の重要性は重々承知しています。それをパソコン上に残すことも先々意味があることもわかります。しかし、「文章として書く」「ノートづくりをする」というアナログな面も捨てがたいです。この使い分け？を将来的にもどうするとよいのでしょうか？私はアナログで大事な力として育てたいのですが。

質問に対して神戸先生からのコメント-----

「文章として書く」「ノートづくりをする」というアナログな面も捨てがたいです。この使い分け？を将来的にもどうするとよいのでしょうか？

文章として書くことは大切なことだと思います。

・キーボード入力は、手書きより深く文章を構成することができますと思います。

・「アナログ」は大賛成です。文章のみで表現できないものを、図や絵や矢印で振り返ることも大切なことだと考えています。

しかし、今は「アナログ」の「ふりかえり」もデジタル化できる時代になってきていると思いますし、

そのような機能を持つシステムを導入すべきではないかとも考えています。

近い将来、「デジタル」と「アナログ」の垣根すらなくなるのではないのでしょうか。

自分が学校に勤務していたころから、神戸先生にはご指導いただきました。現在、違う立場で改めてお話を聴かせていただき、実感できることが多くありました。これから自分なりに理解を深めていこうと思います。学校を訪問する機会が多くあり、その中で、「あれっ」と思うことがあり、学校から相談を受けることもあります。今日の学びを参考にさせていただき、的確に、限られた時間で少しでも力になれるように取り組んでいきます。

ICT活用については、誰もが知りたい内容であると思っていました。神戸先生が話してもらったことは、GIGAスクール構想の全体像から未来の日本の姿、学校現場の実践と幅広い

内容が短時間にもかかわらず、大変わかりやすくまとまっております、良いセミナーでありました。多くの先生方に聴いてほしいと思ったセミナーでした。

毎日、タブレットを使う生徒たちの指導にいろいろ迷っていました。改めて、文房具という言葉がストーンと落ちた気がします。

どうしても、授業中に使う場面は個別の学習になってしまいます。それを、少しずつ改良するためのアイデアをいただいた気がします。ありがとうございます。GIGAスクール構想と言われている中、はじめてだれ一人取り残すことのない個別最適な学びの意味がよくわかりました。今後ともよろしく願いいたします。

これほどの情報量をととても分かりやすくポイントを絞り、チクリと批判もして、ご示唆までいただきました。いっぱい学びました。自分が生分かった部分について、神戸先生から教えていただいたお話で、少しくっきり、はっきりしてきました。これから、いただいた印刷資料を読み込んで、しっかりふりかえり、本日の出席者と対話しながら自分の言葉にしてみたいと思います。自分のこれまでのクラウドにあるデータをまとめ直し、再編集しているところですが、今日の学びを少しでも生かすことができればと思っています。これからもよろしく願いいたします。

Ritlで何度もうかがっている話も、自分が授業者の立場でお聴きすると、グサツとくることばかりです。2倍速の盛りだくさんのお話も、どれも印象に残ることばかりです。とりわけ、同じ環境でも使い方ひとつで「鵜飼型」から「協同(協働)」へというところは、すぐにできそうで、でも、やっていなかったことなので改善！です。

グループに犬山の先生がご一緒に、「自由に使わせているからこそその悩み」を聴かせていただきました。お気持ちがよくわかりますが、でも、自由に使えるものが多いということに「何を大切にするか」がうかがえて素晴らしいと思いました。

久しぶりに、神戸先生のお話を伺い、とても楽しく学ばせていただきました。正直いって「GIGAスクール構想」については、「やらなければならないもの」という捉えで、意義や目的については、あまり深く考えていませんでした。反省しています。

新学習指導要領については自分もそれなりに勉強してきたことを、さらにわかりやすくお話していただき、頭がすっきりしました。

ICTの活用を考えるより、まず「学校経営」そして「教科経営」「学級経営」-----この言葉を大切に、月曜日からまた、がんばります。

まず、今回の神戸先生のお話を聴いていると楽しい授業を受けているような感覚になりました。テンポ、声のトーン、身振り、手振り、対話のタイミングなど教師の目線で学ばせていただきました。GIGAスクール構想について、何も知らないことを実感しました。GIGAスクール構想については、正直、国から押し付けられて、仕方がなくやっている感覚でした。しかし、今回のお話を聴いて Society5.0、第四次産業革命の中を生きる子どもたちのために、我々教師が学び、やらなければいけない使命であると思えることができました。多くのことを学ばせていただいたと同時に元気もいただきました。

一人一台端末になり、授業で子どもたちが端末を使えるように、また教師もICTの活用を考えていかななくてははいけない・・・というのがICTが苦手な自分にとっては「天気🌧」の

状態です。

今日の話の中で、子どもたちがこれから生きていく時代に意識していくこと、そして、自分自身がICTの活用を“便利”って思っていないところが、一步踏み込めていけない理由なのかなと思いました。

私はICTに関しては、できない、わからない子どもの気持ちがよくわかるので、それを強みにして、周りに頼って、依存してこれから学びを進めていこうと思います。

車の自動運転やAIによるセーフティシステムと、今の一人一台端末の授業をオーバーラップさせてみると、自動運転だから、何もしなくてもよいというのではなく、主体的な学びはおろか、学びそのものが成立しなくなってしまう。自動運転で助けてもらうのは、高速道路のような長距離運転であり、街乗りはその機能は使わず、自らハンドルを握り、アクセル、ブレーキを操作したい。その楽しさを味わいたい。

教師がデジタルな部分とアナログな部分をうまく使いながら、道具としての端末が子どもの学びにとって、いかに有益で、便利で、効率的なツールであるかを、生徒に教えることが一番大切なICT教育ではないかと思った。

セーフティシステムさえあれば、事故は起きないが、逆に危機管理への技能は衰える。失敗やハプニング、危機的なことを経験することで学ぶことも多い。危ないから使わせないでは、宝の持ち腐れかもしれない。

GIGAスクール構想とは、よく聞く言葉でしたが、一人一台のパソコンが配られることだけしか考えていなかったのもので、その内容や方向性を聴いて（多くのことは今だ曖昧な認識ですが）なんとなく理解し、考えさせられました。

特に、「鵜飼型」のイメージ図においてハッとさせられました。PC導入にあたり、子どもたちが使い切れていないなあと感じましたが、使い切れていないのは自分の方こそなんだなと思いました。PC導入によって表面的な学びは進んだかのように思いましたが、やっぱり深い学びにつながるためには対話・協働があってこそだと学びました。

図工や社会で具体的な使い方の提言があったので、さっそく来週から使えるように考えていきたいと思います。PC導入によって難しくなる局面が多いと感じていましたが、考え方、使い方次第で深い学びにつながると思うとなんだかワクワクしてきます。

考えるきっかけをくださって、ありがとうございました。

今まで悩んでいたICTの活用の仕方や考え方で、モヤモヤしていた部分がすっきりしました。まずは、授業でどのように、どのような目的で活用していくかを考えて迷うなら、使って体感したことから改善したいと思いました。これから何をすべきか、周りと一緒に考えながら進んでいきたいです。

一人一台のタブレットを最大限のメリットとして使えるようにやりたいと思います。

今日は分かりやすく説明していただきありがとうございました。

アナログ人間の自分から少しでもICTの利活用を学んで脱したい。前に進めたらと思って参加しました。

私にとっては、GIGAスクール構想という難しい課題ではありますが、授業、学級経営、学校経営を豊かに、そして、つなげるツールとして活用していけばよいことがわかりました。

これからも一歩ずつ学び進めていきたいと思えます。

一人一台のタブレットをもつことで、かえって子どもたちの対話が止まってしまっている例、同じ資料を配布したことで、対話が止まってしまう例、2 in 1 PCをどの形で使うかで、他の生徒の画面が見やすい、見づらがあり、それだけでも学びの共有が変わってしまうこと、ICTの使いばかり考えていると、かえって旧来型の授業に戻ることに。

いろいろと気づいていないことを教えていただきました。

ただでさえ情報過多の時代に、お互いの学びを共有することで混乱が起きないように進め方を考えていく必要があると思えました。ありがとうございました。

本校では、先生からも指導を受けたとおりタブレットを授業で使うと、どうしても鵜飼型授業になっています。それを解消していかなくてはならず、どう子どもたちにタブレットを使わせていくべきか、先生方にどう伝えていくべきか悩んでおりました。

今日の神戸先生のお話を伺いながら、まさに、そういうことだ！というヒントをたくさんいただきました。職員室で話をしていけないといけなくて改めて痛感させられました。

また、「タブレットは文房具に過ぎない」という考えを皆さんにも、こっそり伝えたいと思えました。なかなか規制があり、自由に使うことは難しいのですが、こっそり、こっそり伝えていこうと思えます。ありがとうございました。

学校教育でのICTの活用について、学ぶことができました。いつの時代も教育の不偏と社会の変化の間で、学校現場は苦勞してきました。GIGAスクール構想も功罪、明暗がつきものです。

この数年の実践によって現実の方向が決定されそうです。学校の授業を見せてもらうと、良い方向と心配な方向が混在しています。「もう少し子どもたちに自由に使わせた方がよいのでは」という印象を持っています。

今日のGIGAスクール構想や学習指導要領などの中での話が中心でしたが、例えば、「協働」という用語が、実は大政翼賛会時代の投稿参加型ファシズム動員に利用された言葉だということを知りました。真に受けるだけではないとも感じています。

「GIGA」について「すべての人にグローバルで革新的な入口を」ということであることを改めて考える機会を得ました。これから子どもたちが生きる「Society5.0」「第四次産業革命」という時代に、学校として求められているということ。ICTと一緒に暮らしていく社会をつくり、そして、生きていくために必要な力であることがわかりました。

学習にICTを使用することで、日本は世界に大きく遅れを取っている現状からグローバルな社会で生きていく子どもたちを育てるにはどうすればよいか、考えさせられました。それは「学習指導要領」についての話の中で「評価」「日常」「授業」にICTを取り入れていくことに答えがありました。

自分は授業の中でどうやってICTを取り入れるかを考えていましたが、これからの学級経営や学校経営を考えると最適解がICTなのだと、目から鱗が落ちる思いでした。